

□議員名：岡山 明

## 1 避難所の事前対策について

論点	避難場所・避難所は場所により、高低、広狭の違いがある。災害の種類に応じた対応策をどう考えているか。
回答	緊急避難場所は、洪水、がけ崩れ、土石流、地滑り、高潮、地震、津波、大規模な火事などが発生した場合で、人の生命または身体に危険が及ぶおそれがないと認められる場所にあること。避難所には指定の基準が定められており、避難者等を滞在させるために適切な規模であり、速やかに避難者等を受け入れができるものである。

論点	避難に際し、徒歩または車での避難者の割合はどの程度であったか。車中泊の問題も今後出てくる可能性があり、対応はどうか。
回答	何で避難して来たかということは、把握はしていない。車で避難された方については、今回の感染症においては有効かとは思われる。ただ、エコノミー症候群等の問題もあり、また長期になる場合も考えられる、その際には、保健師等の派遣によって健康管理をしなければならないと考えている。

論点	避難所開設・運営マニュアルには、避難者の感染対策が十分に盛り込まれているか。
回答	運営マニュアルについては、昨年9月に改訂、受付時の検温、体調の確認の実施、消毒液の設置、居住区での避難者ごとに2m程度の間隔を確保するなどの感染症対策を追加した。

論点	災害物資等供給応援体制は、どの程度整備されているか。
回答	災害物資等の供給や応援体制は、山陽小野田市地域防災計画で定めている。救急医療体制の確保、災害時における家庭系一般廃棄物の収集・運搬に関する協定、また避難所における物資の調達から食料、生活必需品の供給、災害発生時における段ボール製品の調達など、災害に必要な項目について、各関係機関と事前に56の協定を締結している。

論点	生活物資はどこに備蓄され、どのように保管されているのか。
回答	生活に必要な物資の備蓄については、市役所、厚狭地区複合施設を中心として、公民館や各小中学校の一時避難所に、アルファ米やクラッカー等の食料を合計で約4,500食、水のペットボトル約1,600本、哺乳瓶は約800本、紙おむつ、大人用が約500枚、子供用が約5,000枚、毛布約400枚、簡易トイレ18台などの備蓄をしている。保管方法としては、市役所、厚狭地区複合施設、埴生公民館については、防災倉庫に保管している。

## 2 きららビーチ焼野運用状況について

論点	海水浴場の利用・管理状況はどのようになっているか。
回答	例年7月中旬、第3日曜日の海開きから8月末まで、時間は8時半から17時まで開設をしている。この期間の管理体制は、遊泳の管理人を2名配置するとともに、施設の管理人を2名、計4名を配置している。施設の管理運営は指定管理者制度を活用しており、民間に委託としている。

論点	きららビーチの監視人の年齢制限等の問題もある中、緊急事態への対応、安心安全が確保されているか大変不安を感じている。地元には東京理科大学の学生がいます、監視人として救急救命講習会、これらを受けた上で監視業務を行っていただく。大学との連携を取る形での運用をぜひ進めていただきたいがどうか。
回答	施設の管理運営は指定管理者に任せている。山口東京理科大学の学生の活用は、指定管理者と協議をして決めていきたい。

論点	現在、「幸せの鐘」は午後5時までしか鳴らせない、日本の「夕陽百選」にも選ばれた美しいビーチでもある。夕日が沈む前まで鐘を鳴らせるようにすべきではないか。
回答	「幸せの鐘」については、きららビーチ焼野の観光誘客を図るために、平成28年度にハッピースポット設置事業として製作したものである。夜間の騒音問題を懸念し、鐘の鳴らせる時間帯を午前8時30分から午

	<p>後5時までとしている。現在7月の第3日曜日の海開きの日から8月末日までの期間については、午後7時までに延長をしている。鐘が鳴らせる時間については、地元の方との協議の結果、こういう形になっていることも理解を頂きたい。</p>
--	--